



# モンテッソーリ教育って？

## マリア・モンテッソーリ

「モンテッソーリ教育」とは、イタリア人初の女性医学博士であるマリア・モンテッソーリが、子どもを観察することによって見出した事実に基づく科学的な教育法です。その基本的な考え方は「子どもには生来、自立・発達していこうとする力＝自己教育力があり、その力が発揮されるためには発達に見合った環境（物的環境・人的環境）が必要である」というものです。さらに「大人がすべきことは、何かを直接子どもに教え込むことではありません。子どもの発達がどのような形で進んでいくかを知り、子どもを観察し環境を整えることです」と説いています。モンテッソーリ教育を紹介していくなかで、まずキーワードとなるのが【敏感期】と【自己教育力】です。



今回はこの2点を簡単にご紹介します。

敏感期とは特定の事柄に対して敏感になり、その特定の事柄をいとも簡単に吸収する時期のことをさします。この時期にさしかかった子どもは「自己教育力」を発揮し、集中して繰り返し取り組む姿が見られます。子どもを観察していると、さまざまな敏感期を発見しますが、ここでは代表的な敏感期をご紹介します。

敏感期のポイントは「何度も繰り返している」というところです。

### 01 感覚の敏感期

- 【五感を刺激するものに対して強い興味を抱く】
- ・蛇口から出てくる水をじっと見る、水に触れ続ける
  - ・歩きながらブロック塀を触る
  - ・味の違いが分かる（好き嫌いが出る） など

### 02 運動の敏感期

- 【体育的な動きではなく日常生活に必要な動きの獲得】
- ・階段を繰り返し上り下りする
  - ・ハサミや縫いさし、折り紙など手先を動かす
  - ・椅子や箱を押しながら歩く など



### 04 言語の敏感期

- 【聞く・話す・書く・読むことが楽しい時期】
- ・絵本を繰り返し読んでとせがむ
  - ・これなに？なんで？と質問を繰り返す
  - ・自分や家族、友達の名前や手紙を書きたがる など

### 05 数の敏感期

- 【数字だけでなく量の多い少ないにも関心が出る】
- ・身近にある数字を読みたがる
  - ・こっちの方が量が多い！と言って選ぶ
  - ・お風呂の中で数を数える など

### 03 秩序の敏感期

- 【「いつもと同じ」ことで安心感を覚える】
- ・フィギュアやトミカをずらーっと並べる
  - ・いつもと違う道順だと嫌がって泣き出す
  - ・母のコップを父が使おうとすると怒る など
- ⇒いわゆるイヤイヤ期の特徴ですね！

### 06 文化の敏感期

- 【恐竜や宇宙、国旗など世の中を知りたい時期】
- ・国旗や恐竜の名前を覚え、言い当てる
  - ・図鑑を見ることが好きになる
  - ・体の仕組みやライフサイクルに関心を持つ など



## 敏感期に隠されたチカラ

子どもにはさまざまな敏感期があり、それぞれに異なる発達のテーマがあります。つまり全ての敏感期に共通するのは、子どもが自ら成長するための大切な時期であるということです。この時期に適切な環境を整えることで、子どもは無理なく、そして最大限にその力を発揮することが出来ます。【秩序の敏感期】では安心感を得る力を育み、【運動の敏感期】では身体のコントロールを学び、【数の敏感期】では論理的思考の基礎を築きます。大人がこの敏感期の存在を理解し興味や行動に寄り添うことで、子どもは自ら学び成長します。敏感期とは、子どもが未来へと伸びていくための、掛け替えのない成長のチャンスなのです！

これからも園とご家庭とで子どもの姿を共有しあい、観察を通して子どもの敏感期を発見しましょう！